彌太没後78年 現代の詩人たちへ

9月号の特集の第2弾。岡本彌太が亡くなってから78年の歳月が流れた今も、引き継がれている「彌太忌」。
「彌太忌」と合わせて行われていた「岡本弥太文学賞」（白牡丹祭）。3年前から開設された「岡本彌太・詩賞」。
郷土の偉人を伝え、文芸の楽しさを広める活動を紹介します。
（担当／編集委員　田中　たい子）

白牡丹祭という詩賞

取材のお願いで関係者の方に連絡を入れたところ『ちょうど、「第三回岡本彌太・詩賞」の実行委員会があるから来ませんか？』と声をかけられ、岸本防災コミュニティセンターで行われた実行委員会にお邪魔しました。

旧香我美町時代に、彌太のことを若い世代に伝え、引き継ぐ人材育成につなげようと始まった「岡本弥太文芸賞」。文化協会の文芸サークルの皆さんが、彌太の甥である野村土佐夫さんの助言を受け実行委員会を立ち上げました。

「詩・短歌・川柳・俳句」を募集。

当時役場の担当職員だった矢野佳仁さんは、「やっぱり、これだけの偉人が岸本におったことを伝えていかんとね。文芸の楽しさを、たくさんの人に知ってほしい」と、語り、現在「岡本彌太・詩賞」の実行委員長となっています。

平成14年には「白牡丹祭」として教育委員会が引継ぎ、対象が小・中学生に縮小され、平成22年には「白牡丹祭」は「岡本彌太文学賞」と改名されました。

高校生以上対象の詩賞誕生

「もともと、大人を対象に募集してきた文学賞じゃきね。大人の発表の場がないといかん」

詩人であり小説家でもある野村土佐夫さんは、昔からの親しい友人である岸本地区出身の寺尾尚民先生（高知高須病院元理事長）に相談しました。

「よっしゃ。ほんならわしが支援しよう。」

ということになり、高校生以上が応募できる「岡本彌太・詩賞」という詩賞ができることになりました。

土佐の詩人を育てよう

募集期間は令和2年6月1日～9月20日。

・特選（1点）・副賞5万円・奨励賞（2点）副賞2万円・学生奨励賞（1点）1万円・佳作（数点）投稿料詩一篇につき1,000円

「今年で3回目。応募数も増えてきました。特に彌太の母校である高知商業高校の生徒さんからたくさんの応募がありました。ただ香南市や高知県内の一般応募が少ないのが課題です。地元の高校生もチャレンジを！」と矢野さんやメンバーの皆さんが話していました。

今年は「弥太忌」と「岡本彌太・詩賞」の表彰式を12月6日に午前、午後に分けて行います。

地域をあげて取り組む「文芸」への情熱。彌太没後78年の今年に至るまで冷めることなく、さらに熱くこれを継続させていること。これこそ彌太の残してくれた大きな「宝物」です。将来は大人も子どもも参加できる一つの「詩賞」になる日が来るかもしれません。

彌太の残した物

白牡丹図

白い牡丹の花を
捧げるもの
剣を差して急ぐもの

日の光青くはてなく
このみちを
たれもかへらぬ

※9月号の「岡本弥太の記憶」において、「白牡丹図」の詩に誤りがありました。お詫びして正しい詩をここに掲載させていただきます。

彌太詩賞は今年で3回目。色々な方々から応募の増加策をお聞きして年々増加しています。

今年もコロナ禍の中で、学生167通昨年比100通の増加という快挙でした。しかし、成人の部では、土佐の地元勢の応募が少なくなっていて対策が必要なところです。

「詩」は少数の愛好者により支えられています。弥太の顕彰活動も少数の熱烈な支持者によって担われてきました。第一世代は祖父と同時代の詩人たち、詩碑を建立した島崎曙海さんらの人々、（弥太の）長女瑠香と詩友だった立仙啓一氏をはじめ中村伝喜さんらの顕彰活動、その伝喜さんの教え子の山川久三さんら、追手前の生徒さん。

今は第三世代で孫である私たちに引き継がれています。

何らかの形で「弥太忌」を続けてきたのは評価に値しますし、「弥太詩賞」も、対象年齢層は異なっているものの継続できているのも素晴らしいことと思っています。

生誕地である地元岸本町で開催される表彰式に出席されることは、祖父弥太の業績にふれていただける良い機会となります。今年の「弥太忌」12月6日(日)も、そのような新しい歴史の一ページを加えることができるでしょう。

（参照）
①75年記念のしおり
②平成31年弥太賞の冊子

岡本龍太

▲岡本彌太のお孫さんで、実行委員会の事務局でもある岡本龍太さんからのお手紙をご紹介いたします。

▲表彰式で配布される冊子の一部。受賞者の作品が載せられます。どの作品も、素直な言葉の表現で、心に響いてくるものばかりです。「第18回岡本彌太文学賞」の作品集に掲載された、小学生の部で最優秀の作品を下に紹介させていただきます。

第18回岡本彌太文学賞
小学生の部　最優秀

「小さな命」

夜須小六年　幾井　陽奈

アジサイが雨にぬれるころ
妹が生まれた
ぷくぷく
やんわり
なんてやわらかいんだろう
これは私の妹だ
どんな名前になるのかな
「お姉ちゃん」と
呼んでくれるかな
一緒に寝てみた
一緒にかけっこしてみたい
一緒に歌を歌いたい
ありがとう
産まれてきてくれて